

## 2007年8月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度で見ると、60°N 帯では波数5の波列パターンが見られた。特にロシア西部のリッジに伴う正偏差が顕著だった。極域では東シベリア海からポーフォート海に顕著な正偏差が分布した。北太平洋から米国にかけての亜熱帯高気圧が強く、正偏差が広く分布した。月平均海面気圧で見ると、北太平洋高気圧の日本付近への張り出しが平年より強かった。60°N 以北では、東半球側で負偏差、西半球側では正偏差が卓越した。アゾレス高気圧は北東側で平年より強かった。200 hPa 風速で見ると、月前半を中心に極東域で亜熱帯ジェットのスラックが顕著だった。北極海の海水存在日数は平年よりもかなり少なかった。

熱帯の対流活動は、南シナ海からフィリピンの東方で活発で、この領域では3個の台風が発生した。また、カリブ海から中米でも対流活動が活発で、2個のハリケーンが発生した。8月下旬には、赤道季節内振動(MJO)の対流活発な位相に伴い、サヘル域からインド洋で対流活動が活発化した。MJOの対流活発な位相の東進は下旬を除いて不明瞭だった。8月上旬には、MJOの対流活発な位相に伴う対流活発域がインドネシア付近からフィリピンの北へ北上し、日本の南の高気圧が強まった。また、8月中旬にはアジア

ジェット上の準定常ロスビー波束の伝播に伴い、上層のチベット高気圧の北東方向への張り出しが見られた。

南方振動指数(SOI)は+0.4となった。

### 世界の天候

世界の月平均地上気温平年差は、+0.27°Cで、1891年の統計開始以降、第6位の高温となった。

ロシア西部からアフリカ北東部の広い範囲で異常高温となった。

○南米南部では、この地域の西側の高気圧が平年より強く、前月に続いて異常低温となった。

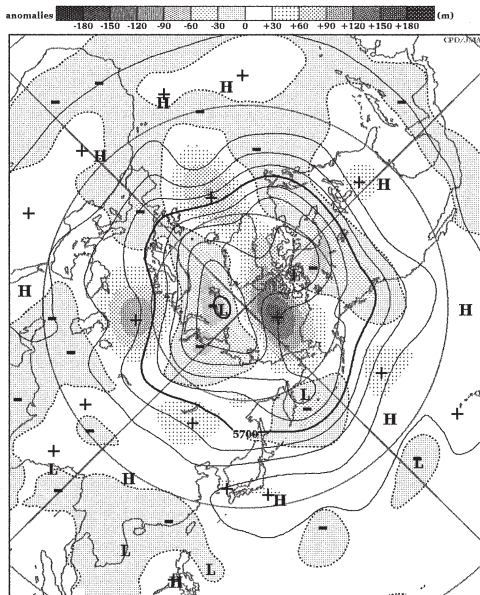
○黄海から東シナ海の周辺では暖湿流や熱帯低気圧の影響で異常多雨となり、朝鮮半島北部などで洪水の被害が伝えられた。

○ヨーロッパ北西部からアフリカ北西部では低気圧や前線の影響を受けやすく、異常多雨となった。

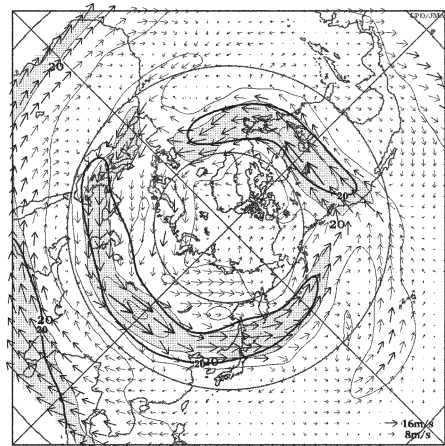
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

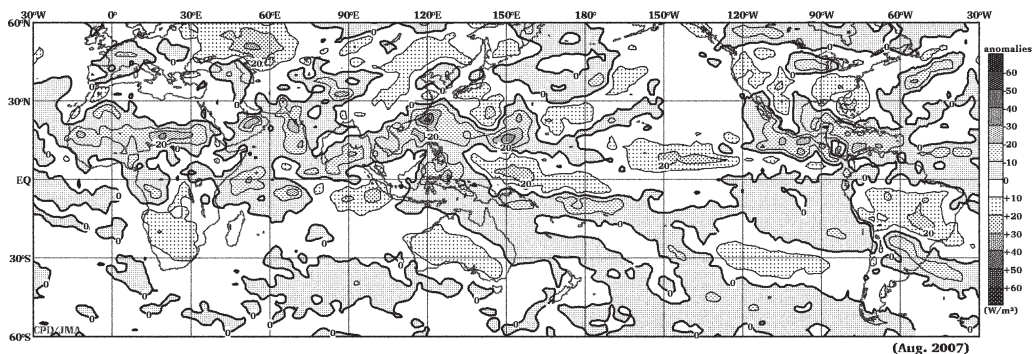


2007年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m, 陰影は平年偏差。平年値は1979~2004年のデータから作成。

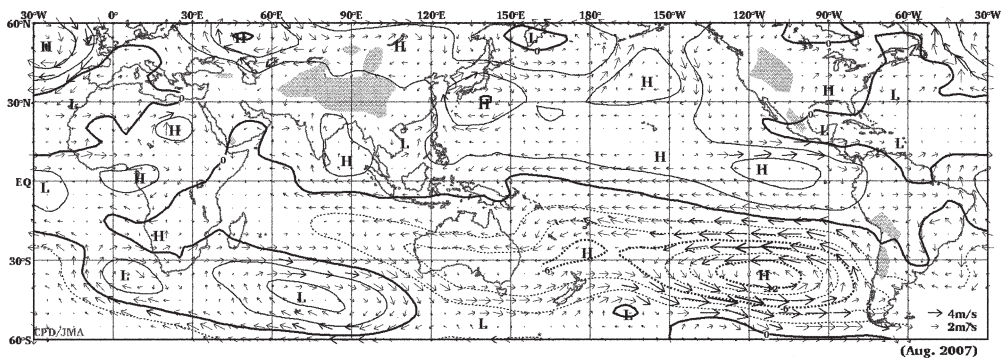


2007年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

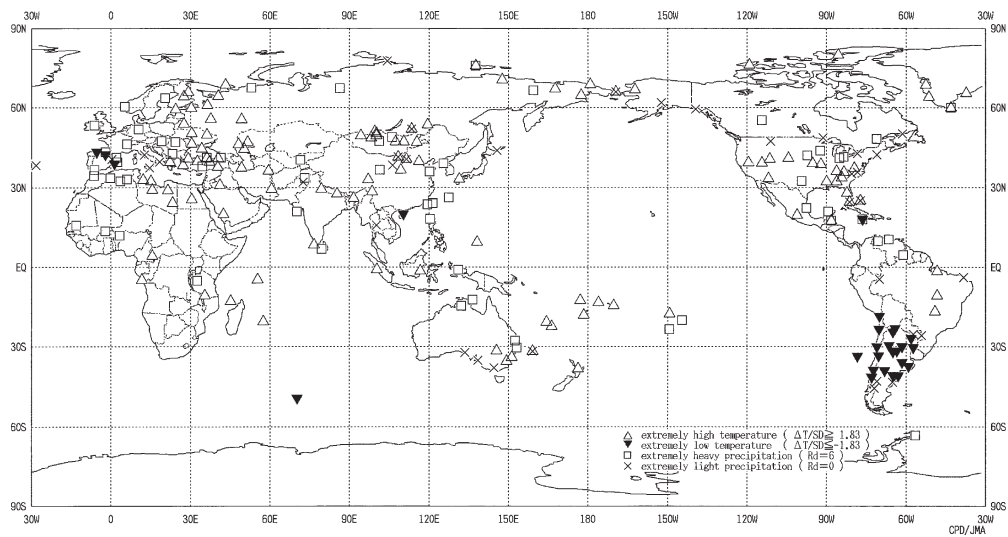
等値線間隔は10 m/s, 陰影部は20 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2007年8月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は 10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA、年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年8月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2007年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。